

第3回バス座談会-バス利用増加へ向けた取り組み-

1. 活動報告

会 場：沖縄県南部合同庁舎 5階 会議室

日 時：平成29年3月13日（月）14:00～17:00（3時間）

ゴール：①第二回座談会で提案したアイデアを基に、実際に解決案を考える
②全参加者の統一した方向性を定める

2. 参加者

沖縄都市モノレール（株）、バス4社：（株）琉球バス交通、那覇バス（株）、沖縄バス（株）、東陽バス（株）、沖縄県高等学校PTA 連合会、沖縄県老人クラブ連合会、沖縄県中小企業家同友会、那覇商工会議所、わった～バス党法入党員、沖縄県企画部交通政策課
（合計約50名）

3. プログラム

時間	タイトル	内容
13:30	受付	
14:00	はじめに	挨拶、趣旨説明
14:10	ウォーミングアップ	今の気持ちを整理するワーク
14:30	本日の目的と方向性の共有	この場の目的の共有
15:00	第二回座談会の提案への返答	各バス会社から返答をしてもらう
15:20	大切にしている価値観を見つけるワーク	全体で共通した価値観を決める
16:00	組織間での協働の形を探るワーク	今後のバス会社との連携・協働を考える
16:45	最終発表	協働の形を発表する
17:00	終了	

4. プログラム内容

<はじめに>

目的：ファシリテーターの挨拶でこの場の意図を説明し、全体の流れを把握する

内容：第二回座談会で出た主な提案の確認を行い、その内容を踏まえた上での本日のプログラムであること、そしてその流れを説明した。

結果：参加者が第一回座談会を踏まえた上での第三回座談会であることを理解した。また今後の座談会の方向性についても把握することができた。本日のプログラム内容についても理解した。

。

<ウォーミングアップ>

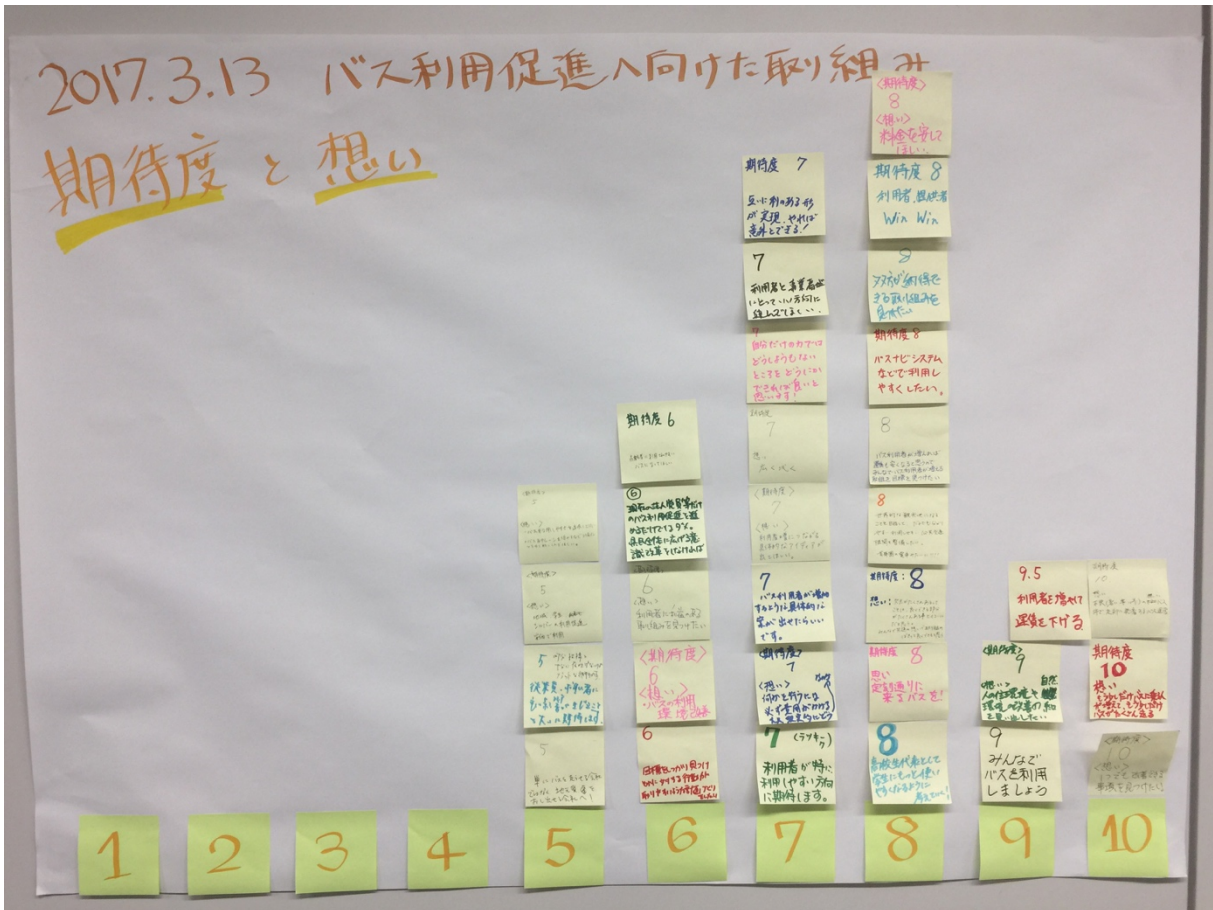
目的：今回はワークショップに入る前に、参加者の状態を把握する。また全体でその状態を共有する。

内容：一人ずつ、付箋紙に期待度と想いを書き、前の模造紙へ貼った。期待度はこの取り組みや

座談会への期待度、そして想いはこの取り組みに掛ける情熱や考えを共有した。その後司会が気になった部分を読み上げ、全体共有をした。(全て匿名性)

結果：全体的に期待度が高く、想いの部分にはバス会社との連携についてや社会の中でのバスの役割について言及している人もいた。

<参加者の期待度と想い>



<本日の目的と方向性の共有>

目的：これまでの座談会を振り借りつつ、今回の第三回で重要なことを共有し、話し合いの方向性を示す。

内容：今回はバス会社へのヒアリングを通して、得た考えやこの場に必要なることを共有した。「継続」と「協働」というテーマの提示、さらに「料金引き下げの話はしません」と言ったようなことをこの場のルールとして定め、参加者へ意識づけを行った。

結果：「料金の引き下げの話はしません」と言ったことに対して、参加者が少々戸惑っていたが、結果的には、料金引き下げの話はほとんど出なかった。

<第二回座談会での提案への返答>

目的：参加者の提案がどのくらいバス会社として実施が可能かどうかを全体で共有する。共有することで、協働の話し合いの方向性を示す。

内容：事前に各バス会社へ依頼していたアンケートを担当者に発表してもらった形式で行った。その後、バス会社の返答について、各グループで話し合いや質疑応答を行った。

結果：できることとできないことが明確になり、一方で、検討できる範囲についても参加者とバ

ス会社の間で共有することができた。

<大切にしたい価値観を見つけるワーク>

目的：各グループとバス会社だけでなく、今回参加された方々と全体で共通する「大切にしたい価値観/考え」を明確にし、話し合いの方向性を定める。

内容：各グループごとに自分自身が大切にしたい価値観を共有し、その後、グループとしての「大切にしたい価値観」を出した。最後には1人3票の投票用シールを持ち、一番共感できるものにシールを貼るというドット投票を行った。シールの数が多い、上位2つをこの場で共有する「価値観」として設定した。

結果：全体で「価値観」について話し合いをすることで、これまでバラバラだった方向性を定めることができた。また、グループ内で「価値観」について話を深めることで、次の話し合いの橋渡しとなった。

以下が設定した「大切にしたい価値観」である

- 1 | **バスの良さをもっとアピールしてWin-Winの関係を築こう！**
- 2 | **バスを利用することが社会貢献**

[大切にしたい価値観を見つけるワークの様子]



<組織間での協働の形を探るワーク>

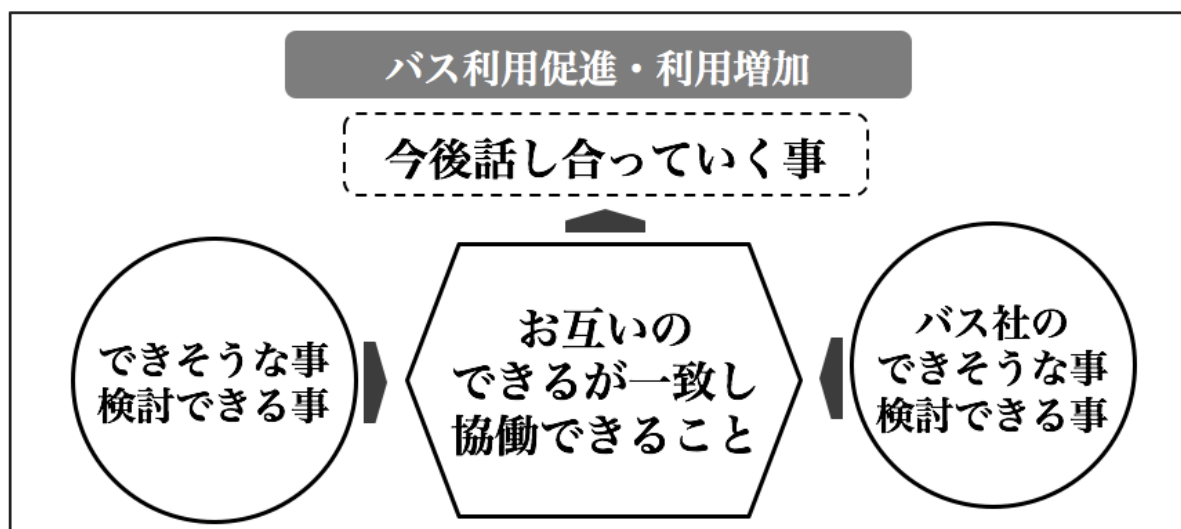
目的：バス利用促進に向けて、バス会社と各組織（沖縄県高等学校PTA 連合会、沖縄県老人クラブ連合会、沖縄県中小企業家同友会、那覇商工会議所）との協働の形を探り、今後の継続の仕方を決める。

内容：下記の図のようにバス会社、各組織が自分たちでできること・検討できることを洗い出し、協働できるポイントを洗い出した。その後、この協働を実現するために、今後継続してどのような話し合いをすることが必要なのかについても意見交換を行った。最後には同じ組織同士で発表をし合った。

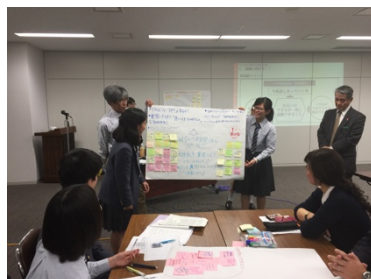
結果：全グループが最後まで決めることはできなかったが、特に通学でバスを利用しているグループでの協働する形は実現性が高く、継続して組織間で話し合いを重ねることで、実現することが可能だろう。また、他のグループについても、料金の引き下げなどの要望はなく、互いにどのようにしたら利用促進につながるかを考え、発表を行うことができた。

<協働の形を探るワークのまとめ方>

模造紙イメージ



[組織間での協働の形を探るワークの様子]



4. 成果

これでバス利用促進座談会は終了となるが、今回の第三回座談会では、当初目標としていた「各組織とバス会社での協働」に限りなく近くづくことができたと考えている。この場で共同宣言まではできなかったが、今後も組織間での継続した話し合いを続けることで、協働を実現することが可能である。特に、通学で利用している高校生のアイデアはすぐにでも取り組むことができるため、実際にバス会社と話し合いを詰めながら、実現したい。今回の座談会での一番大きな成果はこのように、各組織とバス会社が反発し合うのではなく、協働することで、新たなサービスや利用促進に繋がるという事実を参加者全体で共有できたことである。